

「偽教師についての警告 3」

2019年07月10日

ペトロの手紙 二 2章17節～22節 この者たちは、干上がった泉、嵐に吹き払われる霧であって、彼らには深い暗闇が用意されているのです。彼らは、無意味な大言壮語をします。また、迷いの生活からやっとなげ出して来た人たちを、肉の欲やみだらな楽しみで誘惑するのです。その人たちに自由を与えると約束しながら、自分自身は滅亡の奴隷です。人は、自分を打ち負かした者に服従するものです。わたしたちの主、救い主イエス・キリストを深く知って世の汚れから逃れても、それに再び巻き込まれて打ち負かされるなら、そのような者たちの後の状態は、前よりずっと悪くなります。義の道を知っていながら、自分たちに伝えられた聖なる掟から離れ去るよりは、義の道を知らなかった方が、彼らのためによかったであろうに。ことわざに、／「犬は、自分の吐いた物のところへ戻って来る」また、／「豚は、体を洗って、また、泥の中を転げ回る」と言われているとおりのことが彼らの身に起こっているのです。

「著者」は重ねて、偽教師たちに追従しないように警告している。彼らは干上がった泉、嵐に吹き払われる霧であると言う。干上がった泉は何の役にも立たない。霧は嵐に吹き払われたら、はかなく消え去る。偽教師たちは何の役にも立たず、虚しいものである。彼らには深い暗闇が用意されている。Ⅱペトロ2章4節に「暗闇という縄で縛って、地獄に引き渡し、裁きのために閉じ込められました」と書かれている。彼らが光よりも闇の方を好んだのである。深い暗闇の中に捨て置かれ、終末時の全き裁きを待つしかない。彼らは、無意味な大言壮語をする。もっともらしく、大きなことを口走るが、それらには何の意味もない。彼らは、イエス・キリストへの信仰を得て、迷いの生活からやっとなげ出した人々を地上の欲や淫らな楽しみで誘惑する。彼らはキリストの来臨による終末の裁きはないと説いて、終末時の裁きからの自由を約束するが、自分自身の心と体は滅亡に向かっている。

「自由」は偽りで、滅亡の「奴隷」が真の姿である。

人は、自分を打ち負かした者に服従するものである。私たちはイエス・キリストの十字架と復活によって、神に義とされ、命をいただいたことを知った。キリストの愛に飲み込まれ、世の汚れから逃れて、服従することを喜んだのである。ところが、再び巻き込まれて、世の汚れに染まったら、後の状態は前よりずっと悪くなるのではないか。主イエスは、譬えで、汚れた霊が人から出て行ったが、戻ってみると、空き家になって掃除し整えられていたので、自分よりも悪い他の7つの霊を連れて来て、一緒に住み着いた。「そうになると、その人の後の状態は前よりも悪くなる（マタイ 12:45b）」と語っておられる。「著者」は、「義の道を知っていながら、自分たちに伝えられた聖なる掟から離れ去るよりは、義の道を知らなかった方が、彼らのためによかったであろうに」と書いている。

「犬は、自分の吐いた物のところへ戻って来る」のことわざは、箴言26章11節「犬が自分の吐いたものに戻るように／愚か者は自分の愚かさを繰り返す」の引用である。「豚は、体を洗って、また、泥の中を転げ回る」は、旧約聖書には書かれていないが、当時のことわざとして使われていたのであろう。豚は体を洗っても、また泥の中を転げ回るように、彼らは再び、俗悪な生活に戻ると、豚の習性に譬えている。偽教師たちに誘惑され、以前のような悪の道に戻るようなことが、イエス・キリストを信じた人々の間で起らないようにと諭している。